

医師と医師会を結ぶ情報紙

令和6年5月15日／毎月1回15日発行

都医

ニュース

NEWS

Vol.
699

東京都医師会 定例記者会見	01
底流／地区医師会長連絡協議会報告 ほか	02
みどりの広場 ほか	03
ふれあいポスト	04
感染症豆知識 ほか	05
地区医師会長からの一言	06

発行所 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL. 03-3294-8821(代) 定価 1部 77円



熊野神社(板橋区)

撮影：大畑隆郎(板橋区医師会)

東京都医師会 定例記者会見

4月9日

健康食品・サプリメントの摂取に注意喚起

東京都医師会は、4月9日(火)に定例記者会見を開催した。

尾崎治夫会長

冒頭、4月から新型コロナウイルス感染症に係る公的支援が終了して通常診療に戻ったが、依然として3000人程度の感染者数の報告があることから引き続き注視していきたいと述べた。

また、紅麹を含むいわゆる健康食品の摂取が原因と疑われる健康被害が報告されていることを踏まえ概説した。健康食品やサプリメントには法的な定めはない。いずれも「一般食品」に分類され、国の制度に基づき機能性等を表示する3種類の「保健機能食品」と、機能表示ができないその他に分類される。「早く効果を得たいと適量を超えて摂取してしまう人もいることから、結果としてサプリメントの方が健康被害が多い傾向にある」と述べた。

健康食品の摂取と因果関係がはっきりしないものもあるが、副作用を起こすこともある。さらには、医薬品の服用との相互作用によって重大な副作用につながるリスクもある。「このことを理解し、もし身体の不調等を感じたら速やかにかかりつけ医や薬剤師



尾崎会長



平川副会長

に相談していただきたい」「医療機関を受診する際には、医師や薬剤師へ健康食品やサプリメントを摂取していることを伝えてほしい」と呼びかけた。

食品と医薬品の役割の違い、保健機能食品の制度に加え、有効性や安全性が科学的に示されているか否かを見極めて活用していくヘルスリテラシーの向上が望まれる。

平川博之副会長

本年度から新型コロナウイルスの接種は定期接種B類に位置づけられ、65歳以上の高齢者等が接種対象となる。また、原則有償(各自治体において設定した自己負担額)となり、接種を受ける努力義務や自治体からの接種勧奨の規定はない。

平川副会長は、厚労省の示した資料を元に「入院や重症化の患者は依然として存在し、そのうち8割を60歳以上が占めている」と報告した。また、我が国の高齢者のワクチン接種率は高く、死亡者数・死亡率の低減要因になっていると推察されるが、「高齢者の抗体価は若年者より低く、減衰も速いためワクチン接種の間隔は留意すべきである」と指摘するとともに、ワクチン接種が有償となった患者負

担増に伴う接種率の低下を危惧し、高齢者等の脆弱者に対する公的支援の上乗せ検討と高齢者等医療支援型施設の再稼働を要望した。

目々澤理事

医療DXの根幹となるオンライン資格確認システムについて、本年1月時点の導入状況は、保険医療機関・薬局全体で90%、義務化対象施設では98%のほり、都内病院では95・8%、医科診療所では84・7%であることを示した。

佐原博之日本医師会常任理事の資料に基づき、能登半島地震では本システムの災害モードが役立ったと報告した。また、標準型電子カルテでは3文書(健康診断結果、診療情報提供書、退院時サマリー)、6情報(傷病名、アレルギー、感染症、薬剤禁忌、血液検査、処方)が共有され、普及の遅れていた医療情報共有を可能とする想定であると説明した。

東京総合医療ネットワークについては、すでに都内40施設で稼働して4つの異なる病院電子カルテを連結しており、28病院で情報開示、8病院・4診療所で情報閲覧されている。メーカーが異なっても画像閲覧が可能となり、救急時に転院前の相談を電子カルテで行える機能実装を見込んでおり、能登半島地震では同様の機能といえる緊急時連携が役立ったと説明した。

川上一恵理事

麻疹は、新型コロナウイルスと比較してもきわめて感染力が強い。日本は2015年に麻疹排除国と認定されたが、以降も輸入による麻疹ウイルスの伝播によって流行を繰り返している。麻疹排除国を維持するためにはWHOが数値として抗体保有率を「95%以上」としているが、現在、2期の接種率が95%を下回っていることから注意が必要である。

しかしながら、4月からの2期の接種開始に伴いMRワクチンのニーズが高まっている一方で、ワクチンそのものが不足している。大人については母子手帳や接種済み票などの記録を確認していただき、接種を必要とする子どもにワクチンが回るよう、まずは抗体検査をお願いしたい。

また、子育て世代に向けて「母子手帳は一生の宝物で記録になる」「失くさず、都度見返して不足しているワクチンがないかを確認して役立ててほしい」と呼びかけた。



目々澤理事



川上理事

194
みどりの広場
救急・がん・働き方改革

地方独立行政法人東京都立病院機構
東京都立多摩総合医療センター

院長 榎山鉄矢

都立多摩総合医療センターは、府中市の西北端にある789床（結核病床・精神病床・感染症病床含む）の急性期病院です。同じ建物内に都立小児総合医療センターがあり、さらに都立神経病院が隣接して、3つの都立病院が、いわば複合的な医療施設を構成しています。ちなみに日本で一番大きな病院は、1376床の某大病院（2024年3月時点）とのことですが、多摩メディカル・キャンパスの

●救急医療

前身の都立府中病院は、早くから救命救急センターの指定を受け、2002年には「東京ER」を開設して総合的な救急機能を強化し、その数年後には救急車搬送数日本一を記録しました。2010年の改築移転によって小児救急が分離され、単体での救急車搬

送数の順位は落ちましたが、小児救急と合わせると、やはり搬送数は都内有数となっています。

救命救急センターは、最後の砦として3次救急に対応するほか、「ECMOセンター」と称して、都内外から重症呼吸不全事例を受け入れています。当院には4000人を超える新型コロナウイルス患者の入院がありました。特に人工呼吸器やECMOを用いた重症患者の治療においては、数も救



命率等の治療成績も日本有数の実績を挙げることができました。

1次、2次救急についても、医師が救急部門に常駐して、全ての傷病者を受け入れ、初期診療を行う「北米型ER」を目指していますが、ベッド状況等によって、しばしば制限せざるを得ないのが現状です。医師の働き方改革を受けて、救急はますます大病院に集中することが予測されますが、当院においても働き方改革は大きな課題です。今後はさらに地域の病院との連携を推進し、病院救命士等の力も借りて、まずは受け入れる体制を強化したいと思っています。

●がん医療

当院は、地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、幅広いがん診療を行っています。「手術数でわかるいい病院」

内の「都立がん検診センター」の機能を統合して、消化器内視鏡や乳がんなどの外来診療機能を大幅に増強する予定です。

●おわりに

東京は人口当たりの医師数が多いといわれますが、多摩地域に限れば全国平均をかなり下回っています。大病院も少なく、DPCの大病院本院群とDPC特定病院群を合わせて7施設（2023年4月時点）しかありません。そのため地域の大病院への需要は非常に大きく、また求められる役割も多岐にわたっていると感じます。救急も周産期も精神も、そしてがんも難病医療も、いずれも重要な分野であり、手を抜くことはできません。当院は、基幹的な公的病院のひとつとして、他施設との連携や役割分担を推進し、さらにDXとタスクシェアを進め、より効率的に需要に応えていきたいと考えています。御支援と御指導をお願いいたします。

横沢入里山保全地域は、JR五日市線武蔵増戸駅から徒歩15分の距離に位置し、7つの谷戸から成り立つ美しい里山です。かつては田畑が放置され、自然が荒廃していましたが、都の保全事業により田んぼが再

生され、地元コミュニティの力で里山の景観が回復しています。この地域は環境庁によって生物多様性保全上重要な里山里山と認定され、東京都で第一号の「里山保全地域」に指定されました。明

るく開けた雑木林や水田、池、湿地などが保全されており、モザイク状の土地利用が続いています。里山の魅力はその豊かな生態系にあります。多様な哺乳類、鳥類、爬虫両生類、そして昆虫が生息していま

す。特に、カエルの繁殖期には谷戸での産卵行動や、トウキョウサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエルの姿が見られます。6月にはモリアオガエルの卵塊やトンボの群れが

湿地を彩り、夏の訪れを告げます。また、横沢入はヤマトセンブリという昆虫の生息地でもあります。この種は一時絶滅の危機に瀕しましたが、横沢入で再発見され、新種として記載されました。このような貴重な生物が生息する横沢入里山保全地域は、自然愛好家や生物学者にとっても魅力的な場所です。四季折々の自然景観と生物多様性が調和するこの地域は、訪れる人々に豊かな体験と癒しを提供しています。写真のトウキョウサンショウウオの卵は毎年3月頃に一部の湿地帯で見ることができます。

横沢入里山保全地域
生命の息吹を感じる里山

趣味の散歩



毎年3月頃に見られる馬蹄形のトウキョウサンショウウオの卵



（西多摩医師会・神應知道）

地区医師会新会長紹介

- ①最終卒業校 ②略歴 ③趣味 ④好きな言葉

慶應 佐々木 淳一 (救急科)
医師会



①慶應義塾大学医学部

②慶應医師会理事、都医救急委員

会救急相談センター運用部会委員、慶應義塾大学病院副院長

東京都熱傷救急連絡会会長、東

京都メディカルコントロール協議会専門委員会委員

③旅行、読書 ④初志貫徹

ふれあいポスト 各地区会報から

北多摩医師会

水川眞二郎

記憶

絶え間なく左右に動くワイパー越しに見える緩やかな登りの坂道、夕暮れと雨で窓の外は灰色の絵の具で満たされた様な景色、以前も土砂降りの雨の中その坂を車で走っていた感覚が湧いてきたが、これはデジャブではない。その坂は中央線の日野駅を八王子方面に越えた場所で、自分が小学校1〜2年の頃の記憶だったと思う。黄色っぽいベージュ色の車体は現在の車によくあるようなメタリック色でなく厚ぼったさを感じる塗装のカラー、右を向くと隣で白衣を着たまま運転をしている叔母がおり、自分の記憶でははるかかなたの年上の医者と思っていたけれど50歳前後だったと思う。車の後ろにはいつも黒い往診カバン、薬などが無造作にちらばっており、薬品や消毒液なのか独特の甘い匂いがあつたのを覚えている。

いつも鍵は刺したまま、ドアの鍵も閉めずに車から離れていった。一軒家の滑りの悪いガラスの引き戸を開けた叔母の後から自分も家の中に入ってしまった。その家ではいつもお菓子を出してくれて、それが楽しみでついて行っていたのかもしれない。お菓子を食べながら叔母のすることをなんとなく見ていた。分厚いガラスの注射器、ブスコパン、ネオレス、よく使う薬の名前は自然に覚えていた。鴨井に針金のハンガーをまげてガラス瓶の点滴をつるしていたのを覚えている。畳の部屋には横になったお年寄り、若いお母さんや子供がいることが多かったと思う。500ml程度の点滴で終末期を迎えるのがちょうどいいと、経験的に分かっていたのかもしれない。診療が終わる頃には暖かいお湯が入った洗面器にタオルを出してくれていた事を覚えている。点滴瓶が空になった後の針の抜き方を家族に教えて叔母は次の往診先に向かっていった。

50数年後、晴れた日の午後、午前中の診療が終わってから昼休みに自転車で患者さんの往診。独居の認知症の患者さん宅ではヘルパーさんや、訪問看護の看護師さんが待機してくれて診察することができる。家の中は昔の記憶と違い家族も、柴犬もいないが生活を支えてくれる人々がおり、自宅で暮らすことができている。犬は外の犬小屋で飼われていたことが

多かったと思う。昭和55年(1980年)の統計では日本の全世帯数の50%は三世帯世帯であったが、令和元年(2019年)には三世帯世帯は全世帯数の9%まで減っており、単独世帯と夫婦二人暮らしの世帯が全世帯数の60%を超えるようになっている。在宅医療、介護保険制度などの変化はあるが、50数年前と同じように青いハンガーで点滴、ピンクのハンガーの時もある。さすがに子供を往診に連れて行くなど滅茶苦茶なことは許される時代ではないけれど、母校のクリニカルクラークシップの実習で自分の診療所を選んでくれた学生が12月に来る予定とメールが届いていた。お菓子は出せないけどハンガーをもたせて連れて行こうと考えている。

(「北多摩医師会報」2023年11月 第617号より抜粋)



夕焼けの帰港

練馬区医師会 鄭正舟

7月。新潟港に帰航するフェリーから見た出航の船が太陽の逆光に入ったタイミングを測りシャッターを切った何枚かのうちのひとつ。

フレイル予防事業 「階段プロジェクト」(公益事業) への取り組み

西東京市医師会

健康寿命を延ばし、生活の質を保ちながら永く暮らせるように、駅の階段に利用を促進するラッピングをしてフレイル予防に取り組もうと動き出して4年、鉄道会社との話し合いが進まない中、西東京市からペDESTリアンデッキの階段(駅前歩道橋)なら市としても協力できるかもしれないとの提案がありました。

令和5年(2023年)10月、ついに、田無駅の1本目の階段ラッピングが完成、西東京市シティロゲイン2023のチェックポイントにもして頂き、多くの方に見て頂くことが出来ました。見ている方は居てもあまり上っている方が居ないのは寂しいので、会員の先生方には是非上って頂きたいです。

今後、田無駅2本目、保谷駅でもペDESTリアンデッキの階段にラッピングを行って参ります。

駅を訪れる皆様に活用いただき、元気の素となれば幸いです。

(「西東京市医師会報」2024年1月 第85号より抜粋)



無声拝聴

医療と国民を守る
歴史に触れ

筆者は、日本医師会の未来医師会ビジョン委員会に参加する機会を頂き、松本吉郎会長から諮問「若手医師の期待に応え続けていく医師会のあり方」を受け、活動してきました。その中で、横倉義武名誉会長から「日本の医療と医師会」というテーマで、日本医師会の歴史についてご講演賜り、大変感銘を受けました。

明治元年に西洋医学を取り入れることが決まり、全国にさまざまな医師の団体が出来ましたが、大正5年に北里柴三郎会長を筆頭に大日本医師会が設立されたこと。大正12年に日本医師会となり、戦後の昭和22年に再発足したことや、戦後の日本の医療を支えた歴代会長のリーダーシップとエピソードがあったこと。例えば、武見太郎先生が地域内の医師と住民の結びつきが非常に大切であると昭和30年代に既におっしゃっており、武見先生の時代に国民皆保険制度が導入されたこと。村瀬敏郎先生が「かかりつけの医師」という言葉を初めて使われたことや、唐澤祥人先生が「医療の基本は地域」とおっしゃられたこと。先達からの日本の国民を守るという思いを受け継いだ、日本医師会綱領の制定など、横倉先生が会長であられた時の話も伺いました。

地域医療、国民皆保険制度、地域包括ケアシステム、かかりつけ医の概念も、多くの先輩の思いや考えとさまざまな歴史を経て形成されてきたものであることを感じました。超高齢化社会への対応とともに、働き方に対する多様な考え、AIによる技術革新など、さまざまな社会の変化が医療に生じる際、医療のあるべき姿をどう考え、医師としてどう振る舞うか、医の倫理を考えるために、私は医師会の歴史を知ることととても重要で道標になるものだと思われると感じた次第です。

(木山信明)

感染症豆知識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

顧みられない熱帯病は日本にもある

顧みられない熱帯病 (Neglected Tropical Diseases, NTDs) は、主に熱帯地域に分布する20の疾患であり、世界では人口の1/4がこれらのいずれかに感染している。熱帯病でしかも顧みられないとなると、我が国では遠い国での出来事に思えるが、しばしば遭遇する。いや、その再会に気付かないまま通り過ぎてしまっているとも言える。

シャーガス病はトリパノソーマという寄生虫によって引き起こされる。中南米が流行地で、当地域からの移民の1~4%は本寄生虫に感染している。日本には26万人の中南米移民が在住しているため、ざっと3,000人の感染者が存在する計算になる。

シャーガス病に遭遇する可能性がもっとも高い診療科は、意外にも循環器内科である。初感染から数十年を経て心不全や不整脈、心室瘤を起こすためである。次いで多いのは巨大食道症、巨大結腸症などの腸管拡張である。いずれも積極的に疑わない限り診断に辿り着くのは難しいだろう。中南米からの移民の患者の診察では、トリパノソーマが感染している可能性を常に頭に置いておく必要がある。診断は抗体検査が有用であるが、残念ながら現時点で保険収載されているものはない。臨床研究の一環として診断に取り組んでいる機関があるため、そこに相談する必要がある。

本疾患の伝播は吸血昆虫のサシガメによるため、ベクターによる国内での感染伝播はまず起こらない。しかし、経胎盤感染の確率は5%、また血液中に存在する小数のトリパノソーマ原虫による感染も起こりうる。献血血液でのスクリーニングは我が国ですでに実施されているが、臓器移植に伴う感染が国外で報告されており、今後注意が必要である。

(文責：美田敏宏)

都医からのお知らせ

INFORMATION

第133回 慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー

慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課内
生涯教育研修セミナー事務局
TEL: 03-5363-3611 E-mail: med-somu-3@adst.keio.ac.jp

問合先

日時▶6月8日(土) 15:00~18:00
形式▶WEB配信
講演会▶「眼科医療の最前線」
モデレーター▶根岸一乃(慶應義塾大学医学部眼科学教室 教授)
対象▶慶應義塾大学医学部、三四会、慶應医師会、慶應義塾大学関連・紹介病院、東京都地区医師会に所属する医師
取得単位▶日医生涯教育制度1.5単位(CC:0)
参加費▶無料・事前登録制(申込多数の場合は先着順となります)
※詳細は慶應義塾大学医学部のWEBサイト(<https://www.med.keio.ac.jp/>)の「ニュース」にて後日お知らせします。

次回開催予定▶10月26日(土)

令和6年度
「日本医師会生涯教育講座」
スケジュール

時 間 ■ 14:00~17:00
開催方法 ■ WEB配信(Webex)のみ(予定)
問 合 先 ■ 東京都医師会 広報学術課 TEL: 03-3294-8821(代)

開催期日	テーマ
5月30日(木)	睡眠障害・睡眠呼吸障害と高齢者
7月11日(木)	難治性気管支喘息の診断と治療
10月31日(木)	関節炎の診断と治療
12月12日(木)	認知症治療

※最新情報は東京都医師会ホームページをご確認ください。

都医ニュース2号(昭和36年2月発行)をお持ちの方はご一報ください

東京都医師会広報学術課
TEL 03-3294-8821

医師国保からのお知らせ

～加入資格を喪失した場合は、必ず届出が必要です～
※保険証は返還してください

下記に該当した場合は、添付書類、保険証とともに医師国保組合へ届出をお願いいたします。

〈資格喪失の届出が必要な場合〉

- 第1種・第3種組合員(医師)が医師会を退会、又は医療の業務に従事しなくなったとき
- 第2種・第4種組合員(従業員)が退職したとき
- 家族が世帯から転出したとき
- 定められた地区外に住所を異動したとき

※マイナンバーカードを保険証として利用している場合も、これまで通り届出が必要です。

各種届出に必要な書類は、ホームページよりダウンロードできます

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6433 (業務課)

知ってますか?

スタンフォード監獄実験

1971年8月にスタンフォード大学で行われた、有志の被験者を看守役と囚人役に分けて行われた心理学の実験で、看守役が囚人役に暴力で罰を与えるまでに及ぶ結果となった。人間が権力を握ると暴走することを如実に表しており、医師も健康保険などの仕事で権力側に回ることもあるので注意したいものである。

地区医師会長からの一言 日本橋医師会の取り組み

日本橋医師会長 竹内聡美



中央区には中央区医師会と日本橋医師会の2つの医師会があり、地名に日本橋とつく地域と八重洲1丁目の医療機関が日本橋医師会に所属しています。

日本橋は、その中央に日本国道路元標が設置され、古くは五街道の、現在は主要国道7路線の起点となっています。夢と希望と少しの不安を胸に抱き旅立ち、経験や知識技術を身につけ、また日本橋を目指して帰ってきた古の人の姿を目に浮かべると、時空を超えたロマンを感じます。

その元標の周りにデザインされている葉は榎という木の葉であり、この榎が道しるべとして一里ごとに植えられ、遠くからでも旅人の目印になったことから、日本橋医師会のロゴマークにも榎の葉を配しています。

また、現在でも東京駅や東京シティアターミナル(T-CAT)など陸と空の日本の玄関口となっているため、インバウンドの方々も多く来られ、銀座・日本橋・人形町などはコロナ禍前の活気を取り戻しています。ただそうなれば、外国人医療の問題や、新興感染症などさまざまな問題を想定しなければなりません。これらに対して行政や近隣医師会と十分に対策を考えていく必要があります。

皆様もご存じのように、日本橋には創業300年を超えるような老舗が数多くあり、その伝統は大切にしつつ、常に良い物、新しい物を取り入れようとして努力しています。私ども日本橋医師会もSDGsの考えを取り入れ、デジタル化、ペーパーレス化を進めてまいりました。そして6年前には役員全員へiPad Pro®を貸与し、アプリケーションにはEvernote®を使用し、紙媒体では難しかった写真・動画の保存・閲覧なども簡単に行えるようになりました。

その後、コロナ禍に見舞われた際にはこの時の蓄積が大変

役に立ち、理事会を感染が始まった初期から完全オンライン化とすることが出来、感染対策を取ることが出来ました。また、学術講演会もZoom®を用いて遅滞なく開催することが出来ました。感染が落ち着いた現在においても学術講演会は、講師がどこにいても(例え海外でも)、聴衆がどこにいても、十分な講演と議論が行えることが分かり盛んになってきています。

このように当会では現在で言うところの医療DXを進めて来ましたが、一方でやはり大切なことは「顔の見える」地域医療連携だと考えます。

その一つとして、日本橋医師会人形町ビル内に「東京中央地域産業保健センター(地産保)」を開設しています。こちらは千代田区、神田、文京区、小石川、中央区、日本橋の6医師会が共同参画し、日本橋医師会が幹事役を務めています。地域には大企業の本社・支社なども多数ありますが、その一方で従業員50人未満の企業が80%も占めるため、地産保は産業医の選任義務のない小規模事業者の相談や面談にあたっています。また、産業医を中心に年2回産業医研修会を開催し、多くの方々にご参加いただき、ご好評をいただいていると自負しています。

さて、最後になりますが、「顔の見える」医療連携において、最も大切なことは大災害が起こった時です。最近の能登半島地震のように、東京にもいつ大規模災害が発生しないとも限りません。そのような時こそ日頃からの信頼関係が必要だと考えています。お互いに「自助、互助、共助、公助」の意識を高め、準備と信頼関係を深め、自分を守り、仲間を助け、地域住民を助けていく力を今こそ持たなければなりません。私ども医師会も多様性を持ちながら、地域に信頼されるよう努めていく所存です。